

1. 前年度からの主な変更点

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策
- ・一部講義をWeb形式として実施する。(ため池防災・減災技術研修 他)
 - ・集合形式時における講義室等の見直しを行う。(本館5階講堂の活用、期間短縮など)
- (2) 基礎技術研修
- ・今年度研修中止による国職員の研修対象者の増加を踏まえ、コース区分・対象者を一時的に見直しする。(高卒、大卒のコース区分を取りやめ、対象者を国職員に限定する)

2. 研修生決定の流れ(例年通りを予定)

- ①農工研 → 各農政局等 (発出：2月中旬)
研修毎の参加予定数、名前、推薦調書提出の依頼
- ②各農政局等 → 農工研 (期限：3月下旬)
研修毎の参加予定数、名前の登録
- ③各農政局等 → 農工研 (期限：4月中旬)
推薦調書の提出(公文)
- ④農工研 → 各農政局等 (発出：5月上旬)
研修生の決定通知(公文)

令和3年度農村工学技術研修予定一覧(1/2)

研修コース	内 容	予定者数	時期
基礎技術 (第1回/第2回)	数学、水理学、土質力学、構造力学、鉄筋コンクリートの設計、測量等の講義、講義と関連した実験実習、事例研究等	各24名	(第1回) 5月19日～7月20日 (第2回) 9月28日～12月1日
中堅技術	当部門の全領域の研究に関する講義、実習、事例研究等	16名	11月8日～11月19日
農村振興係長A	スマート農業技術、防災等の講義、事例研究等	20名	9月13日～9月17日
ダム機能保全I	調査・設計・施工等の建設技術に関する講義	16名	6月1日～6月4日
ダム機能保全II	堤体の安全管理、耐震性能照査等に関する講義及びダム機能診断に関する現地実習等	16名	6月29日～7月2日
用水計画と河川協議	用水計画、河川協議、水路システム、河川水利行政等に関する講義、河川協議の実務に関する事例研究及び実践演習等	30名	7月5日～7月16日
土地地質	土地地質調査の基本、各種調査試験方法、関連事業等に関する講義、ボーリング調査実習及び物理探査実習、及び事例課題研究等	16名	10月25日～10月29日
水利システム	農業用水利システムの利用、管理、機能診断、性能設計、水管理制御システム等に関する講義及び水路実験等	24名	9月6日～9月10日

令和3年度農村工学技術研修予定一覧(2/2)



研修コース	内 容	予定者数	時期
農村計画・地域資源	農村活性化、地域資源の利用、農村環境の保全、施設の長寿命化等に関する講義及び実習等	16名	10月19日～10月22日
生態系保全	生態系配慮の技術指針に沿った内容の講義、環境調査手法に係る実習・演習及び発表討論等	16名	9月27日～10月1日
施設保安全管理	農業用施設の耐久性照査、コンクリート構造物の保安全管理等に関する講義、機能診断調査に関する実習、事例研究等	16名	9月8日～9月17日
経済効果Ⅰ. 理論	費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等	40名	6月21日～6月25日
経済効果Ⅱ. 実践演習	費用対効果分析等に関する講義、費用対効果分析のための各種効果算定の演習等	35名	10月4日～10月8日
農村防災・減災技術指導者	農村や農地海岸の災害の防止・抑制、被災対応、関連法令・事業制度、ワークショップ等に関する講義、ため池氾濫解析及び減災対策に関する演習等	16名	6月7日～6月11日
ため池防災・減災技術	ため池減災技術としてハザードマップ作成時の浸水域予測方法と浸水想定区域作成に関する演習等	60名	5月17日～5月21日